

# 2019年度 HCFM フェローシップ募集要項

HCFM フェローシップ委員会 委員長

草場鉄周

## 0. 制度の概要

家庭医療専門研修修了者に対して、北海道家庭医療学センター（以下、HCFM）の基幹サイトのスタッフ医師のポジションを提供し、家庭医療の実践はもちろんのこと、診療所運営・研修医教育・臨床研究の理論や方法論を、実践を通して学習してもらう機会を提供する。2017年度からは、家庭医療専門研修修了者の個別の進路への希望やニーズが多様化してきたことを踏まえて、期限やコンテンツの柔軟性を大きく高めた学習の機会を提供している。このフェローシップを通じて、家庭医療学・医学教育・診療所経営・研究の基盤を固めながら、**診療所の運営責任者・研修指導医（プログラム責任者）・臨床研究者といった様々な専門性をニーズに合わせて選択**して、その素養を身に付けてもらい、今後の日本の家庭医療発展の中核となる人材への成長してもらうことを目指していく。

## 1. コースの概略

### (1) コース概要

フェローシッププログラムは、『家庭医療学コア』『診療所経営』『医学教育』『臨床研究』の4領域で構成、『診療所経営』『医学教育』『臨床研究』の3領域については、家庭医療専門医として必須と言える内容のみを学ぶ基礎と、それ以上のレベルを追究する応用の2つのモジュールに分けられる。受講者は基礎モジュールを必修とした上で、応用モジュールについては個別のニーズに応じて1つ以上を選択する。各コンポーネントの詳細は5.(5)を参照。

基礎コース	応用コース
1.家庭医療学コア	5.診療所経営 応用
2.診療所経営 基礎	6.医学教育 応用
3.医学教育 基礎	7.臨床研究 応用
4.臨床研究 基礎	

また、受講者は各々のキャリア上のニーズに合わせて期限を設けた上で、フェローシップ受講を開始することができる。

(2) 2019年度の募集概要

下記の2コースにおいて若干名募集する。

**フルコース（2年以上） 若干名**

『家庭医療学コア』、『診療所経営』、『医学教育』、『臨床研究』の4分野について、現場での実践と理論の学習を往復しながら学んでいく。上記で提示した7つのモジュールの全てを選択する形となるが、期限は特に設けない。

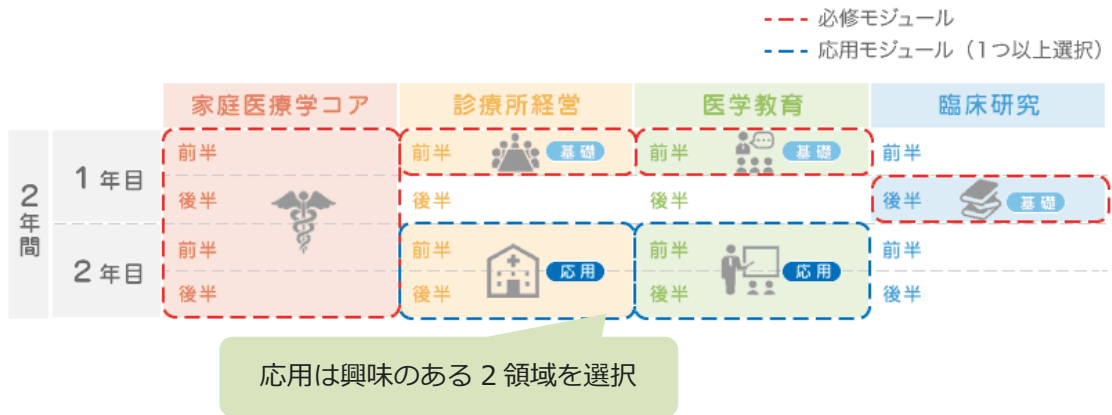
**選択コース（2年以上） 若干名**

- 受講者が自らのニーズや関心に応じて開始時や受講中に選択できる。
- 7つのモジュールのうち、『家庭医療学コア』と3つの基礎モジュールは必修。
- 応用については『診療所経営』『医学教育』『臨床研究』の中から1つ以上選択。
- 受講モジュールと期間は、開始時や受講中に選択することが可能

【受講プラン例】

①関心に合わせて選択することが可能

例：興味のある経営と教育を集中的に学びたい



②生活や自分の学びのスタイルの兼ね合いで時間のかけ方の調整が可能

例：子育て中だが、基礎と教育をゆっくりと可能なペースで学びたい：2年以上のコース



各コースを年単位で受講、2年以上かけて修了

## 2. 対象者

以下のいずれかの要件を満たす者

- (ア) 日本プライマリ・ケア連合学会（旧：PC学会及び家庭医療学会を含む）認定「家庭医療専門医」の資格を持つ者あるいは2019年度に取得する見込みの者（2019年3月にプログラム修了見込みの者）
- (イ) HCFMが認める（ア）以外の他組織の家庭医療専門研修を修了した者（海外のプログラムなど）
- (ウ) 2019年4月の時点で臨床経験を5年以上有する見込みで、研修・勤務履歴や能力評価を通じて家庭医療専門研修を修了したレベルと同等と判断できる者

## 3. 選考方法と定員、勤務地選定

- 定員：各コース若干名
- 選考方法 ※面接や試験の日程は個別に相談し決定：
  - ① 対象者(ア)に該当
    - ・ 当センター後期研修プログラム所属者：面接を実施
    - ・ HCFM以外の後期研修プログラム所属者：履歴書・推薦状提出の上、面接を実施
  - ② 対象者(イ)に該当：履歴書・推薦状提出の上、面接を実施

- ③ 対象者(ウ)に該当：履歴書・推薦状提出の上、筆記試験・CSA・面接等を実施
- ・勤務地：当センターと志願者の中で協議の上、選定

#### 4. 身分と待遇

- ・身分：
  - ・医療法人 北海道家庭医療学センター 職員（正職員）
  - ・北海道家庭医療学センター フェロー（fellow）と呼び、スタッフ医師として扱う
- ・給与：法人規定の医師年俸に準拠（当直手当、住宅手当、通勤手当支給）
  - ・フェローシップ 1 年目：平均年俸 1020 万円（当直手当込み、変動有り）
  - ・フェローシップ 2 年目：平均年俸 1056 万円（当直手当込み、変動有り）
- ・その他、夏期休暇制度（1 週間／年）・自己研修費などは法人正職員（医師）と同等の待遇

#### 5. 業務／研修内容

##### (1) 診療

- ・HCFM のサイトにスタッフ医師として継続して所属。上級スタッフと共に、それぞれのサイトの日常診療に従事する。サイトに応じて、外来診療・訪問診療・病棟診療（有床診療所）を実施していく。
- ・家庭医療専門研修医よりも診療面の独立性は高まり、対外的にもスタッフと同様の立場で病診連携／外部組織との連携に関与する。
- ・診療の実践を通して、家族志向型プライマリ・ケア、患者中心の医療の方法、家庭医療に特異的な問題解決技法についての理解を更に深めていく。

##### 【自己研修】

フェローには自己研修の機会が保障されており、サイト指導医とコース責任者との協議の上で内外の医療機関での研修を計画し実践することができる。今まで、在宅緩和ケア研修、スポーツ医学研修、産婦人科研修、各種学会や研究会への参加など多様な研修が選択されている。法人からの費用援助は規定に則って実施。

##### (2) 診療所運営／北海道家庭医療学センター活動

- ・診療所のマネジメントの中でも所長・副所長でなくても必要となる基本的なもの（スケジュール管理、システム整備、会議運営、診療の質改善、経理、人事、広報、施設管理など）について、専攻医の役割からは一線を画して、副所長（副院長）あるいはそれに準じた立場で権限を与えられ、それに見合う責任を持って関わっていく。
- ・北海道家庭医療学センターのメンバーとして、委員会活動をはじめとした様々な活動に参加する機会があり、日本や海外の家庭医療関係者と交流し、人的なネットワ

ークを構築する。(国内・国外の学会活動への参加奨励)

- 対外的な活動（地域での講演会、法人内外の様々な施設や組織との協力など）にもスタッフのサポートのもと、責任を持って関わっていく。行政なども含めた地域包括プライマリ・ケアについての理解を深める。

### (3) 医学教育

- 当センターが関わる医学生教育（対外的活動を含む）、初期臨床研修、後期家庭医療専門研修に、スタッフと共に従事していく。

上記の実践にあたって必要な医学教育の基礎(カリキュラム計画、方略と評価の実施、外来・病棟での教育など)を理論と実践を通して深く学習し、一般指導医のみならずプログラム責任者として活動を行える立場を目指す。

### (4) 臨床研究

<基礎>

- 京都大学医学部大学院 医療疫学講座（福原俊一 教授）及び NPO 法人 健康医療評価研究機構 iHope とのコラボレーションで提供する FMAP プログラムを通じた臨床研究の系統的学習

- この中で、研究活動を実施するために必要な臨床研究の知識（リサーチクエスチョンの選定、研究プロトコルの作成、適切な統計学手法の選択、研究のデザインと質管理、発表のプロセスなど）について、オンラインの講義とグループ学習、自己学習を実施する。

- 京都大学医学教育国際推進センターの錦織 宏 准教授から質的研究ワークショップを提供され、質的研究の概要、インタビュースキル、分析方法などについて5回のTV講義と実地ワークショップを通して学ぶことができる。

<応用>

- 基礎にて学んだ臨床研究の知識を踏まえて、実際に研究を実践するプロセス（臨床研究プロジェクト）を通じて体得していく。研究トピック、研究チーム、サポート体制については、フェローの関心領域・HCFMにおいて行われている研究プロジェクト・その時点で可能な研究リソースを考慮しながら、決定していく。
- 学習から論文作成のプロセスで、京大医療疫学教室や他大学の臨床研究・質的研究のエキスパートからの手厚いサポートを受けることができるのが大きな特徴。

(5) インターネット学習やワークショップ

- (1)～(4)については、所属するサイトでの日常業務、ならびにスタッフとの交流の中で学習していくことが基本となる。
- ただ、これを実践する上で学習を標準化し、一定のレベルを担保するためにも、TV会議を活用した継続的なFD courseを受けていくことが極めて重要である。一般に行われている指導医養成講習と異なり、現場で座学にて学んだことを実践し、振り返り、スタッフからフィードバックを受けながら、試行錯誤できることはこのコースのポイントである。以下にその枠組みと詳細を示す。

<TV会議による遠隔学習を中心とした学習システム>

(ア) TV会議ワークショップ

毎月3～4回のペースで、以下のようなテーマのワークショップを3時間のTV会議(1.5時間×2コマ)を通じて継続して提供する。コーディネーターは草場を中心に全スタッフが関わる。

研究については前述した京大との連携フェローシップを基本とする

**家庭医療コア**

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ① 継続性からの視点           | ④ 医師患者関係の深まり；       |
| ② 地域包括ケア             | ・ 自分自身を知る           |
| ③ 家庭医らしい医療面接；        | ・ Illness Narrative |
| ・ 決断の共有              | ・ 家庭医療における Healing  |
| ・ inner consultation | ⑤ 家族志向型ケア           |
|                      | ⑥ 家庭医としての自己分析、統合ケア  |

## 診療所経営

### <基礎>

- ① 学習する組織  
～構成員が絶えず学び組織を  
活性化するシステム作り
- ② プロジェクトワーク
- ③ 診療報酬の仕組み
- ④ ビジネススキル；
  - ・ タイムマネジメント
  - ・ プレゼンテーション
- ⑤ リーダーシップと職場コミュニ  
ケーション・基礎編(会議運  
営、交渉術)
- ⑥ CVの書き方

### <応用>

- ① ビジヨナリカンパニー
- ② 人材マネジメント(採用や解雇、人  
事など)
- ③ 会計学
- ④ 経営戦略、マーケティング
- ⑤ 組織論
- ⑥ 職場コミュニケーション・応用編(衝  
突・対立の解決)
- ⑦ 診療所開設シミュレーション

## 医学教育

### <基礎>

- ① 医学教育の理論(成人学習理論)
- ② 小グループでの教育  
(Workshop、SEA、症例カンフ  
ア等)
- ③ 大グループでの教育(講義など)
- ④ 外来教育(プリセプティング、  
ビデオレビュー等)
- ⑤ 各教育の評価方法について  
(形成的評価、判定的評価など)
- ⑥ カリキュラムの作成
- ⑦ 医学教育者としてのキャリ  
ア・役割
- ⑧ 学習者・教育者関係・困難な  
学習者

### <応用>

- ① アウトカム基盤型教育の構築
- ② メンターシップ・コーチング
- ③ 技術教育・遠隔教育・生涯教育の  
考え方
- ④ 様々な評価方法(テスト理論・OSCE  
など)
- ⑤ カリキュラム評価・改革
- ⑥ エビデンスに基づいた教育(Best  
Evidence Medical Education)と  
教育者としての自己学習

## 家庭医療の研究

### <基礎>

- ① 家庭医療における臨床研究の意義
- ② リサーチクエスションから研究計画の作成へ
- ③ 医療統計の基礎
- ④ 量的研究（コホート、ケースコントロール、システマティックレビューなど）
- ⑤ 質的研究（リサーチクエスションの立て方、インタビュー、アクションリサーチ、医療人類学とエスノグラフィーなど）

### <応用>

臨床研究(量あるいは質的研究)の実施

### (イ) フェローフォーラム（年2回）

年に2回、全フェローが一堂に会して合宿を行い、日常のTV会議学習などでは得難い、グループワークを中心に学びを深める。それと同時にフェローシップコミュニティーを強化し、学び合い教え合う文化を育む。

例：2017

年4月フォーラム

プレゼンテーションコンテスト

システム理論演習

フェローシップにおける「学習」とコースポートフォリオ

学習する組織についてのレクチャー・ディスカッション

懇親会

### (ウ) 現場の実践への手厚いサポート

こうしたTV会議やフォーラムでの学びをサポートするために、【コースポートフォリオ】を継続的に作成してもらい、現場の指導医とコース責任者（草場）から定期的に（前者は毎月、後者は3ヶ月毎）学習状況の把握と適切なアドバイスや行っていく。

こうしたサポートの意義は、TV会議での学びをただの勉強とすることなく、現場で試してみてそこから省察を深め、自分の家庭医としての個性を加味しながら、フェローそれぞれの家庭医としての在り方をしっかりと形成していくことにある。このプロ



セスの支援も提供していく。

いわゆる医学知識・技術にとどまらない家庭医としての生き方を確かにすることで、多様な日本の医療環境・情勢の中で、力を発揮しながら活躍していけることが究極の目標といえる。

## 6. 指導体制

### (1) 北海道家庭医療学センター(主要教官のみ、他の上級スタッフ・フェローも講義提供)

- 草場鉄周 (HCFM 理事長)
  - ・プログラム責任者・家庭医療パート責任者
  - ・平成 11 年京大卒、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会副理事長
  - ・日鋼記念病院初期研修修了、北海道家庭医療学センター家庭医療専門研修修了
  - ・ウェスタン・オンタリオ大学家庭医療学講座大学院に在籍
- 山田康介 (HCFM 副理事長/更別村国保診療所所長)
  - ・平成 10 年北大卒、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医・指導医
  - ・日鋼記念病院初期研修修了、北海道家庭医療学センター家庭医療専門研修修了
- 宮地純一郎 (HCFM 上級スタッフ/浅井東診療所副所長)
  - ・プログラム副責任者・教育パート責任者・質的研究パート担当
  - ・平成 17 年大阪大卒、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医・指導医
  - ・地域医療振興協会 家庭医療専門研修「地域医療のススメ」修了
  - ・北海道家庭医療学センターフェローシップ修了(3期生)
  - ・京都大学医学研究科 医学教育推進センター 研究生
  - ・欧州医学教育学会 ESME(Essential Skills in Medical Education)コース修了
  - ・平成 29 年 9 月～  
エジンバラ大学医療人類学修士課程
- 佐藤弘太郎 (HCFM 理事/本輪西ファミリークリニック院長)
  - ・研究パート責任者・量的研究パート担当
  - ・平成 17 年横浜市立大卒、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医
  - ・日鋼記念病院初期研修修了、北海道家庭医療学センター家庭医療専門研修修了
  - ・北海道家庭医療学センターフェローシップ修了(3期生)
  - ・研究歴

平成 21 年 9 月～平成 24 年 3 月：

厚生労働科学研究 臨床研究基盤整備推進研究事業「実現・持続可能性ある  
臨床研究フェローシップ構築研究」へ北海道家庭医療学センターから参加

平成 26 年 9 月～平成 27 年 5 月：

Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health - Special Study  
Program for Japan

平成 28 年 3 月～：

Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health-Master of Public  
Health on line course 履修中

- 高橋宏昌 (HCFM 事務局長)
  - ・ 経営パート責任者
  - ・ 小樽商大卒、北大経済学部大学院卒、経営学修士
  - ・ 病院コンサルタントとして医療機関の経営全般の見識を持ち、経験も厚い
- 加藤光樹 (まどかファミリークリニック院長)
  - ・ 平成 18 年帝京大卒、日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医・指導医、日本在宅医療学会認定専門医・指導医
  - ・ 日鋼記念病院初期研修修了、北海道家庭医療学センター家庭医療専門研修修了
  - ・ 北海道家庭医療学センターフェローシップ修了 (4 期生)
  - ・ 九州大学大学院医学系学府 医療経営・管理学専攻 専門職学位課程修了, 医療経営・管理学修士 (専門職)

## (2) 外部協力施設

- 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野 福原俊一教授
  - ・ 臨床研究に関する知識・実践についての幅広い協力体制
  - ・ 臨床倫理や臨床試験、調査研究法などについても教育提供予定
- 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター 錦織宏准教授
  - ・ 医学教育研究・質的研究の手法に関する教育提供

## 7. フェローシップ修了後について

### (1) 修了認定

- コースポートフォリオの合格と各種プロジェクトワークの提出、サイトでの Global rating・360°評価、家庭医療診療 VTR 試験、これらに対する口頭試問などでフェローシップの修了を認定する。
- コースポートフォリオとは学びの記録とそれに対する省察を継続的に実施し、自らの成長を記録していくシステムである。この作成プロセスについては、専属のメンターがついてじっくり修了までサポートを行う。このプロセス自体が大きな学びにつながると言っても良いだろう。

例：2017年メンタリングプログラム

- (ア) 研修医とフェローの学び方の違いについて
- (イ) ポートフォリオの理論と作成に必要な日々の実践
- (ウ) これまでの医師としての歩み
- (エ) 実践記録・振り返り作成方法の内省
- (オ) 作成した振り返りを用いたディスカッション

### (2) 修了後の進路

- フェローシップ修了生に対しては、修了後も継続した生涯学習の機会を提供すると共に、当センターでのポジションや外部組織への就職も含め、選択したコースに応じた修了後の進路の可能性および支援を提供する。
- **引き続き在籍する場合、他組織へ就職した場合のいずれにおいても、フェロー修了生は HCFM で行われる生涯学習の場やネットワークに参加が可能であり、フェロー終了後も各領域について学ぶ機会を得ることが可能である。**
  - **センターの上級スタッフおよびフェロー修了生のみが参加できる、月1回のオンライン生涯学習(EORA 倶楽部)への招待、など**
  - **上記のオンライン生涯学習の場では、センターの上級スタッフ・フェロー修了生が実際に体験したマネジメントに係るケースカンファレンスが行われている。**
- これまでの修了生は、HCFM・他組織を問わず、HCFM のサイト責任者としてのサイト運営、実家の医院継承、教育プログラム責任者・教育専任者、研究者などの立場で幅広く活動している。具体的な修了生の進路と活躍の場を以下に示す。
  - 安藤高志（1期生、上川医療センター所長、北海道家庭医療学センター 家庭医療専門学 専門医コース プログラム責任者）

- 松田 諭（2期生、啓明家庭医療クリニック院長）
- 松井善典（3期生、浅井東診療所所長）
- 成島仁人（3期生、三重大学家庭医療学講座、津ファミリークリニック院長）
- 榎原 剛（4期生、獨協医科大学病院総合診療科・総合診療教育センター）
- 福井慶太郎（4期生、福井内科消化器科クリニック）
- 村井紀太郎（5期生、北星ファミリークリニック院長）
- 中村琢弥（5期生、医療法人社団弓削メディカルクリニック常勤医、滋賀家庭医療学センター教育部門担当指導医）
- 北山 周（6期生、北山医院副院長、藤田保健衛生大学総合診療・家庭医療プログラム 非常勤指導医）
- 堀 哲也（6期生、帯広協会病院総合診療科責任医長）
- 堀 みき（6期生、帯広協会病院総合診療科主任医長）
- 上野暢一（7期生、若草ファミリークリニック院長）
- 長 哲太郎（7期生、大阪家庭医療センターファミリークリニックなごみ院長）
- 中島 徹（7期生、向陽台ファミリークリニック院長）
- 今江章宏（8期生、寿都診療所所長）
- 神廣憲記（8期生、栄町ファミリークリニック）
- 松島和樹（9期生、医療法人社定さんせん会金井病院 総合診療科 医長／家庭医療センター長）
- 貴島啓介（9期生、まどかファミリークリニック副院長）

以上